

令和 3 年 5 月 12 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00888

研究課題名(和文)ビデオレターを活用した異文化理解・交流のための外国語教育の実践研究

研究課題名(英文) Foreign language education for cross-cultural understanding and communication by the exchange of videos

研究代表者

坂本 旬 (Sakamoto, Jun)

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：60287836

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は2018年度から3年計画で言語学習におけるCLIL(内容言語統合型学習)理論と異文化コミュニケーション学習におけるMILID(メディア情報リテラシーと異文化対話)理論を統合し、タブレット端末を用いた海外の学校とのビデオレターによる異文化交流学習の有効性を検証することを目的とした。これらの研究の成果として、2021年2月に『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(法政大学出版局)を出版した。本書は、CLILによる言語リテラシーとMILIDによるメディア情報リテラシーの統合がデジタル時代のSDGsの教育学に不可欠な要素であることを示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校英語が教科となり、英語教育の重要性が社会的に高まった。本研究は、英語と映像を用いて海外の小学生と交流する体験をすると、英語学習への学習意欲が高まることを明らかにした。さらに地域の課題を世界の課題と結びつけて考え、行動する能力の育成はSDGsの教育である。映像を読み解き、創造してコミュニケーションする能力はメディアリテラシーであり、言語リテラシーとメディアリテラシーがその基礎である。このようにして、本研究は「SDGsの教育学」を構想し、一冊の本にまとめることができた。そして、実践的には国際協働学習を進める国際的団体のiEARNとユネスコスクールや福島県の復興教育との接合を実現した。

研究成果の概要(英文)：This three-year research project started in 2018 and aimed to integrate CLIL (Content-Language Integrated Learning) theory in language learning and MILID (Media and Information Literacy and Intercultural Dialogue) theory in intercultural communication learning, and to verify the effectiveness of intercultural exchange learning through video letter exchange with overseas schools using tablet devices. As a result of these studies, we published "Pedagogy of the SDGs Linking the Region and the World" (Hosei University Press) in February 2021. This book shows that the integration of language literacy through CLIL and media and information literacy through MILID is an essential component of the pedagogy of the SDGs in the digital age.

研究分野：メディア情報教育学

キーワード：メディアリテラシー 内容言語統合型学習 英語教育 異文化理解教育 異文化交流教育 国際協働学習 ESD SDGs

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

(1)新学習指導要領により、小学校外国語活動・外国語科が令和2(2020)年度から全面的に実施された。これに伴い、小学校での外国語教育の導入と充実が不可欠となる。外国語活動・外国語科の目標には「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を育成するとともに、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と明記されている。

外国語を用いたコミュニケーションによる「聞く・話す・読む・書く」の4つの基礎的な資質・能力の育成とともに、外国語の背景にある文化への理解や主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、児童・生徒に異文化間コミュニケーションを体験させることが効果的である。そのために、外国語教育の分野では、CLIL(内容言語統合型学習)理論を用いた異文化コミュニケーション学習の実施が試みられている。この文脈から坂本ひとみは福島とトルコの小学生を結ぶ英語環境教育プロジェクトを行ってきた。いわば外国語教育からの異文化コミュニケーションアプローチである。

(2)坂本句らは福島県内のESDを実施するユネスコ・スクールを中心に、ユネスコのメディア情報リテラシーとESDの理論を基礎としたビデオレターやテレビ電話会議システムを用いた異文化コミュニケーション学習を実施し、その成果をユネスコの国際会議で報告してきた。交流対象国はネパール、アメリカ、インドネシアといった国々であり、英語を交流言語としている。こちらはESDおよびメディア情報リテラシー(MIL)教育からの異文化コミュニケーションアプローチである。

(3)両者のアプローチにはそれぞれ学術的な利点と弱点を持っている。前者は外国語教育の視点による研究実績を持っているが、ICTの活用という視点が不足しており、他方、後者は外国語を交流言語にしているにもかかわらず、外国語教育研究の視点が不足している。児童生徒はビデオレター等のICTを用いた異文化コミュニケーションを通して、どのように外国語の言語能力を発達させるのであろうか。また、外国語の言語能力の発達はメディア情報リテラシーや異文化理解・異文化対話能力、ESDの7つの能力・態度の発達とどのように結びついているのであろうか。さらに統合されたCLILとMIL、ESD教育理論によって、児童生徒はいかに相互のステレオタイプな認識や意識を変容させ、生涯にわたる異文化理解・異文化対話を可能にするのだろうか。本研究はこのような学術的背景のもとに始められた。

## 2. 研究の目的

(1)小学校の外国語活動・小学校から高校までの外国語科を中心に、言語学習におけるCLIL(内容言語統合型学習)理論と異文化コミュニケーション学習におけるMILID(メディア情報リテラシーと異文化対話)理論を統合し、タブレット端末を用いた海外の学校とのビデオレターによる異文化交流学習の有効性を検証することを目的とした。

(2)さらにESDおよびSDGsのための教育との接合の方法についても検証することを目的とした。ESDについては従来から7つの能力・態度の育成を目標として進められてきたが、SDGsのための教育については、ユネスコから8つのコンピテンシーの育成が示されている。このようなユネスコの動向を背景にESDやESDGsと外国語教育・異文化対話教育の関係を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1)実践の方法

異文化コミュニケーションの方法としてビデオレター制作・テレビ電話交流を用いた。学校ごとにタブレット端末を用意するとともに、作品を共有し、セキュリティを確保した状態でコミュニケーションを行うための専用の動画サーバー(OATube)を用意した。OATubeは法政大学メディア情報教育研究センターと国際テクノロジー株式会社が共同開発した動画共有システムである。

### (2)分析方法

学校種ごとに実践研究計画を立案し、それぞれのプロジェクトで、一年に一回の計画・実践・観察・振り返りのサイクルをそれぞれ3回実施し、観察及び振り返りから得られる結果を分析・評価する。小学校段階については、4年から6年生までの3年間の能力形成過程を継続的に調査し、3年目に研究成果をまとめるものとする。

①CLILの4C(Content, Communication, Cognition, Community/Culture)による授業観察と評価による分析

②MIL+ESD ESDの7つの能力・態度(批判的思考力、未来予想計画力、多面総合思考力、コミュ

ニケーション力、協力態度、つながり尊重態度、進んで参加する態度)による分析評価の方法は次の2つの方法を用いる。一つ目は児童生徒が自ら記入する質問紙法による評価であり、もう一つは児童生徒のビデオレター制作過程および作品を対象とした評価である。特に外国語教育は映像制作および交流過程に埋め込まれて進行するため、映像の制作過程や送られて来たビデオレターの読解過程における言語教育・学習活動の分析が不可欠である。そのため、実践過程の録画を行い、その分析を実施する。また、交流対象が海外であるため、海外の研究者と協力しながら、現地での調査を実施する。

③小学校でビデオレターと英語による異文化交流教育を体験した児童は中学校における英語学習にどのような影響をもたらすのか、須賀川市内の小学校と中学校を対象に、質問紙法を用いて追跡調査を実施する。

#### (3)理論研究

本研究の理論的土台となる CLIL と英語教育、メディアリテラシー、ESD、地域教育に関する最新の理論動向を調査・整理する。とりわけ、ユネスコの SDGs のための教育やメディア情報リテラシー理論に重点を置き、SDGs の教育学の理論的基礎とする。

## 4. 研究成果

(1)CLIL による英語教育とビデオレターによる異文化交流体験は、英語学習への意欲を高めることを実証した。この研究は言語学習におけるポジティブな体験と学習意欲の関連性に注目しており、英語授業において、数年間を通じて繰り返し「異文化友好」の機会を与えられた学習者が、それをポジティブ体験として受け止め、外国の人々と英語でコミュニケーションをとる意欲や自信につながる可能性が示された。

(2)ビデオレターによる異文化交流のプラットフォームとして、法政大学と株式会社国際テクノロジーセンターが開発した「OATube」を法政大学情報メディア教育研究センターの支援を得て活用した。日本における参加校は3校のみであり、数が少ないが、これまでの国内と国外の二校間の交流ではなく、より多くの学校間の共有が可能となった。国内の学校間の交流にも活用できることから、今後は活用範囲を拡大させることができると考えられる。

(3)最終年度に3年間の研究成果をまとめ、今後の研究の方向性を示した『地域と世界をつなぐSDGs の教育学』(法政大学出版局)を出版した。本書は以下の①から④までの4つのパートに分かれている。

#### ①新たな教育の潮流

第一の潮流は小学校英語(外国語)教育である。文法中心の英語学習ではなく、内容言語統合型学習(CLIL)を紹介し、その重要性を指摘している。第二の潮流はESDとESGsである。ESDはSDGs(持続可能な開発目標)の登場によって、ユネスコは「SDGsのための教育」を提示した。それをESDと比較し、さらにユネスコのもう一つの教育理論であるメディア情報リテラシーとの統合を示した。第三の潮流は地域教育の潮流である。地域教育について、地域という公共空間のなかで地域社会を形成する人材育成のあり方をまとめた。

#### ②教育理論と実践(英語教育)

小学校英語を中心に、英語教育の理論と実践の詳細をまとめた。ここではCLILとiEARNの実践を紹介している。

#### ③教育理論と実践(メディアリテラシーと復興教育)

白方小学校のビデオレター実践と福島県広野町のシネリテラシーの実践を紹介している。そしてどちらも東日本大震災と原発事故の影響を受けており、復興教育として進められていることも大きな特徴である。

#### ④新たな教育理論に向けて

今後の研究の方向性を示した。ここでは「リテラシー概念の伸展」、「国際理解を育む視点」、「メディア・リテラシー教育における『批判的』思考力」、「持続可能な地域のあり方に向けた学校教育」の4本の論文を収録した。これらは本研究をさらに進展させるための上台となる理論研究である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 1
2. 論文標題 バッキンガム講演がもたらす日本のメディア・リテラシー教育研究への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 メディア情報リテラシー研究	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 17
2. 論文標題 虚偽情報時代の情報リテラシーとメディア・リテラシー教育の新たな展開 ニュース・リテラシーから現代プロパガンダ論まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 51-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15002/00022438	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 1
2. 論文標題 デジタル・シティズンシップとシティズンシップ教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 メディア情報リテラシー研究	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 1
2. 論文標題 虚偽情報時代のメディア情報リテラシーと学校図書館	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 メディア情報リテラシー研究	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 17
2. 論文標題 メディア・リテラシーにおける批判的思考とは何か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法政大学キャリアデザイン学部紀要	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00023002	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 17
2. 論文標題 ソーシャル・メディア時代のメディア・リテラシー教育の新たな展開 プログラミング的思考からアルゴリズム・リテラシーへ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00023234	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 113
2. 論文標題 学校図書館とオンライン情報評価能力をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館雑誌	6. 最初と最後の頁 796-799
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡智寿子	4. 巻 14
2. 論文標題 ネパール女性の社会参加の様相: 声の民主主義の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 田園調布学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 89-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 102
2. 論文標題 ソーシャルメディアと教育の現在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育と人間	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 107
2. 論文標題 デジタル・シティズンシップとメディア情報リテラシーの育成を	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 クレスコ	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 16
2. 論文標題 メディア・リテラシー教育のコア・コンセプトの理論と展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政大学キャリアデザイン学部紀要	6. 最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00021647	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬・今度珠美	4. 巻 16-1
2. 論文標題 日本におけるデジタル・シティズンシップ教育の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00021434	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬	4. 巻 2
2. 論文標題 基礎教育としての異文化ビデオレター交流実践の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基礎教育保障学	6. 最初と最後の頁 83-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32281/jasbel.2.0_91	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本旬・寺崎里水・笹川孝一	4. 巻 16-2
2. 論文標題 福島における「持続可能な開発のための教育」のための地域学習支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00022394	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ、滝沢麻由美	4. 巻 27
2. 論文標題 オリンピック・パラリンピックをテーマにした国際理解教育-CLILによる英語授業実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 139-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24547/00000143	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺崎里水・坂本ひとみ	4. 巻 18
2. 論文標題 21世紀型の「生きる力」を育む小学校英語教育: 学力を競う英語学習から異文化間コミュニケーション力を重視する深い学びへ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00023632	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長岡智寿子	4. 巻 15
2. 論文標題 地域づくりとメディアの役割をめぐって：社会教育活動としてのラジオ放送番組「Bungamati Aawaj」の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田園調布学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 59-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上郷子	4. 巻 2
2. 論文標題 メディア情報リテラシーにおける協働学習の自己評価 リーダーシップ、コミュニケーションスキル、シチズンシップの観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 メディア情報リテラシー研究	6. 最初と最後の頁 70-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00023651	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 旬	4. 巻 6
2. 論文標題 COVID-19時代のSDGsと国際協働学習 困難な時代の異文化対話とメディア・リテラシーを考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際協働学習 iEARN レポート	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 旬	4. 巻 17
2. 論文標題 ソーシャル・メディア時代のメディア・リテラシー教育の新たな展開 プログラミング的思考からアルゴリズム・リテラシーへ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 旬	4. 巻 2
2. 論文標題 コロナ禍とメディア情報リテラシー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 メディア情報リテラシー研究	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jun Sakamoto	4. 巻 5
2. 論文標題 Possibility of addressing "fake news", hate speech in Media and Information Literacy education in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 MILID Yearbook 2018/2019	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 坂本 旬	4. 巻 18
2. 論文標題 偽情報・陰謀論時代のオンライン情報評価と多元的リテラシーとしてのメディア・リテラシー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 政大学キャリアデザイン学部紀要	6. 最初と最後の頁 53-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 旬	4. 巻 2
2. 論文標題 東日本大震災10年と多元的で循環的なメディア・リテラシー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メディア情報リテラシー	6. 最初と最後の頁 93-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 旬	4. 巻 18
2. 論文標題 デジタル・リテラシーとは何か 批判的デジタル・リテラシーからデジタル・メディア・リテラシーへ 3. 雑誌名 6	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン:法政大学キャリアデザイン学会紀要	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00023627	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 フィリピンとベトナムにおける英語教員セミナー講師としての実践授業 - アジアの物語をCLIL授業の内容として -
3. 学会等名 J-CLIL学会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 福島県の公立小学校におけるCLIL授業実践 - 英語劇『スイミー』 -
3. 学会等名 小学校英語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本旬、鹿又悟
2. 発表標題 福島から世界へ 英語とビデオレターを活用した異文化交流
3. 学会等名 日本ESD学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本旬
2. 発表標題 「フェイクニュース」時代における情報評価能力の育成 欧米の研究状況から日本の実践まで
3. 学会等名 日本NIE学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本旬
2. 発表標題 The MIL movements over Disinformation problems situation in Japan
3. 学会等名 UNESCO Global MIL Week (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本旬
2. 発表標題 学校図書館とオンライン情報評価能力の育成
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本旬
2. 発表標題 OATubeを用いた映像による異文化交流プロジェクト
3. 学会等名 法政大学情報メディア教育研究センターシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本旬
2. 発表標題 ESDと教育改革 被災地の学校での取り組みから
3. 学会等名 福島大学教育復興シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 小学校高学年を対象としたCLIL授業実践 オリンピック・パラリンピック開催国ブラジルをテーマとして
3. 学会等名 J-CLIL国際学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 小学校3年生を対象としたCLIL授業－大豆をテーマとして
3. 学会等名 小学校英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 シリア難民の子どもたちの声を聞こう！
3. 学会等名 新英語教育研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 Pluriliteracies --CLIL for deep learning
3. 学会等名 小学校テーマ別英語教育研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitomi Sakamoto
2. 発表標題 Let's listen to Syrian refugee children!
3. 学会等名 JALT National Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 英語で家庭科、そして異文化交流
3. 学会等名 言語教育エキスポ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 福島県須賀川市白方小学校における外国語活動実践報告
3. 学会等名 福島ESDコンソーシアム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 How Australian Children Learn about COVID-19
3. 学会等名 小学校テーマ別英語教育研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 大学生が小学生を支援するパラリンピックをテーマとした学び
3. 学会等名 小学校英語教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 福島の小学校におけるパラリンピックをテーマとした外国語活動
3. 学会等名 言語教育エキスポ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 Paralympics and Human Rights Education
3. 学会等名 JALT
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本 旬
2. 発表標題 COVID-19時代のデジタル・シティズンシップ教育の可能性
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本 旬
2. 発表標題 オンライン・ニュースを読み解く「横読み」とは何か
3. 学会等名 日本NIE学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本 旬
2. 発表標題 デジタル・リテラシーとは何か
3. 学会等名 日本教育メディア学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 鈴木渉、坂本ひとみ他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 183-201
3. 書名 小学校英語のためのスキルアップセミナー-理論と実践を往還する	

1. 著者名 村田晶子、坂本旬、森茂岳雄、津山直樹、その他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 大学における多文化体験学習への挑戦	

1. 著者名 坂本ひとみ他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 338
3. 書名 ことばのスペクトル 越境	

1. 著者名 坂本旬、芳賀高洋、豊福晋平、今度珠美、林一真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 168
3. 書名 デジタル・シティズンシップ	

1. 著者名 寺崎 里水、坂本 旬	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 216
3. 書名 地域と世界をつなぐSDGsの教育学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

福島ESDコンソーシアム  
<https://www.facebook.com/fec.org/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂本 ひとみ  (Sakamoto Hitomi)  (10205776)	東洋学園大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授   (32520)	
研究分担者	寺崎 里水  (Terasaki Satomi)  (70432028)	法政大学・キャリアデザイン学部・教授   (32675)	
研究分担者	長岡 智寿子  (Nagaoka Chizuko)  (20738273)	田園調布学園大学・人間科学部・准教授   (32720)	
研究分担者	村上 郷子  (Murakami Kyoko)  (80383131)	法政大学・その他部局等・講師   (32675)	
研究分担者	菅原 真悟  (Sugawara Shingo)  (00745052)	法政大学・その他部局等・講師   (32675)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 The Media Literacy Education in the Digital Capitalism Age	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 1st Japan-Korea Media and Information Literacy Forum	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	大連外語大学			
カンボジア	カンボジア・メコン大学			
ネパール	メディア・リサーチ・センター			
韓国	視聴者メディア財団	韓国ユネスコ国内委員会		